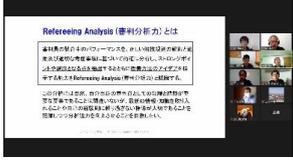
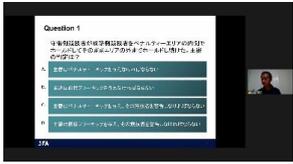


研修報告書

報告日	2021年5月24日
管轄	指導者部/都市委員長部会/広報
報告者	神田哲也

概要	実施日時	2021年5月16日 12時～17時
	場所	兵庫フットボールセンター明石グラウンドおよび大会議室
	活動内容	2021年度第1回 審判インストラクタートレーニングセンター
	講師	中村正光 [スーパーバイザー] 山本弘之、内橋克博
	運営	野上貴史、神田哲也
	受講者	川島陽治、小河良洋、布元淳智
	テーマ	アナリシス・チュータリング

		項目	写真
		講義要旨	<p>挨拶：内橋部長 *イントレの目的・目標・方針について *指導者部の体制（組織図説明） *イントレ受講者に期待するもの</p> <p>講演：中村2insより *チュータリングの概要 *第1回目の内容と目的を説明 *競技規則テスト（記述式）</p>
内容	実技要旨	<p>●試合観戦 ①13時20分 兵庫県社会人リーグ2部（第6節）F. C. GYATORUZUvs神戸FCB 主審 田内 実（3級/2級候補） ②15時10分 兵庫県社会人リーグ2部（第6節）AZALEA三田vsKITASUMA 主審 清 大助（3級/2級候補）</p> <p>フィードバック①② ①=担当ins：布元（SV）内橋 ②=担当ins：川島/小河（SV）山本/中村</p> <p>今回は、試合観戦後に審判団に残っていただき、実際に振り返りを行った。また帰宅後にレポートを書き、期日までに提出する、といった実践さながらの研修となった。</p>	 
	感想	<p>今年度もコロナの影響で遅れてのスタートとなった県イントレ。兵庫独自の取り組みとして、「年間8回」の計画を立てた内の第1回目を明石で開催した。</p> <p>緊急事態宣言発出中であつたが、感染防止対策と細心の注意を払いながら講義と実技の両面にスポットを当て、また県2部の試合に割当られた2級候補2名の指導を同時に進めることができた。</p> <p>内橋部長からは、今年度の活動方針や内容をはじめ、受講者への期待等、多方面からの成長を促される。</p> <p>中村insからは最初に要点を絞ったチュータリングの振り返りと、抜き打ち競技規則テストが行われた。</p> <p>講義は1h程度で終え、次は外で試合観戦。2級候補の動きや判定を見つめ、メモする各受講者。2試合見終わった後、会議室を二分割、2つのグループに分け、審判チームとの振り返りが行われた。</p> <p>スーパーバイザーとして、山本委員長からも助言をいただき、受講者ならびに審判団も今後の課題を見つめ直すことができた研修となった。</p> <p>レポート提出後には内橋部長による添削が行われ、書くときの注意（外してはいけないポイントとして適用ミスの指摘と対策法）と絞り込み方、良かった点を伝えることで、“気づき”が生まれ、次に繋がる初回となった。</p>	
	備考	<p>【感染対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場入場時に検温実施 ・会議室は常時窓を開放 ・入室時には必ず手洗淨（消毒） ・マスク必着 ・密を避ける ・健康チェックシートの提出 	

研修報告書		報告日	2021年6月7日
		管轄	指導者部/都市委員長部会/広報
		報告者	神田哲也
概要	実施日時	2021年6月5日 9時～17時	
	場所	各自宅 (zoomによる配信・運営・受講)	
	活動内容	2021年度第2回 審判インストラクタートレーニングセンター	
	講師	主：鳥家浩司 副：渡辺直幹 [オブザーバー] 梶山勝弘	
	運営	中村正光、内橋克博、神田哲也	
	受講者	川島陽治、小河良洋、布元淳智	
	テーマ	アナリシス (分析力の向上)	
内容	講義要旨	項目	写真
		・ チュータリングの振り返り *頑張った審判員への労いと肯定 *質問する時の工夫 *相手の考えを引き出す *答えを一緒に考え導く (コンシダレーションポイントの活用)	
		・ アナリシスについて *経験則に頼らない *最新の情報をもって指導 *論理的に分析する/できること *20/21競技規則改正部分の映像を用いて分析説明 (お手本披露)	
		・ 競技規則テスト[担当：渡辺氏] 四者択一方式 *パワーポイントを利用して4問出題 *解答してもらい、その根拠をひとりずつ説明させた。 *最後に解答を共通理解させた。	
		・ 映像分析[担当：鳥家氏] 準備してある4場面を見て、分析を行う。 *反則の有無 *反則の種類 *懲戒罰の有無 *根拠説明 コンシダレーションポイントを見て重要と思うポイント(番号)を上から順番に答えていく。 *最後に解答を共通理解させた。	
	実技要旨	特になし	
感想	対面からzoomへと変更したが、大きなトラブルもなく、無事終わることができた。 冒頭の挨拶で内橋部長から指導力向上に関する檄が飛び(振り返り時の導き方、レポートの語彙力、分析そのものの精度アップ)、締まった会となった。 3名の受講者は一度はチュータリング手法を習ったこともあり、説明は省き、振り返りに留まった。 アナリシスについては、映像を使い出題形式でそれぞれ「どう判定したのか」を聞き出し、コンシダレーションポイントの考慮事項に沿って解説、解答へと導かれていった。 最終的に受講者全員が同じ判定となるよう共通理解が図れた。 今後は、指導者全体において判定のズレ幅が最小限となるよう、まずは今年度の受講者が兵庫を牽引していく立場になることを意識して参加しなければならない。 また年度終盤は実践形式で開催していくので、「見極める・伝える」力を回を追う毎に1つずつアップデートしていきたい。		
	備考	・ 関西協会から2名講師をお招きし、講演を行っていただいた。 ・ 当初、対面講習予定であったが、緊急事態宣言延長を受け、リモート開催となった。	

研修報告書

報告日	2021年7月17日
担当	指導者部/都市委員長部会/広報
報告者	神田哲也

概要	実施日時	2021年7月11日 9:00 ~ 17:00
	場所	甲南高等学校 大会議室
	活動内容	2021年度 第3回 審判インストラクタートレーニングセンター
	講師	主：鳥家浩司氏 副：渡辺直幹
	運営	梶山勝弘、中村正光、神田哲也
	受講者	川島陽治、小河良洋、布元淳智
	テーマ	アナリシス（分析力の向上）

内容	セッション [担当：鳥家氏]		写真
	講義要旨	◇オープニング トップレフェリーが躍動する映像を流し、研修に参加している意識を高めていく。	
◇アイスブレーキング 緊張した堅い雰囲気溶かし、意見を出しやすくする為の手法。 今回は「10円玉を思い出して書く」がテーマ。 普段常に見て使用している物でも鮮明な記憶がない。審判においても俯瞰して見る場面と寄って注視する箇所を使い分ける必要がある。何気に見ていると輪郭しか見えてこない。			
◇チュータリングの振り返り ・自分の意見を押し付けない ・INSが喋り過ぎていないか？ ・相手に考えさせ、思いを引き出す ・コンシダレーションポイントの活用 ・答えへと導いていく			
◇競技規則の改正について ・ハンドの解釈をクローズアップ 25場面前後の映像を見て詳しく解説。 自然な手の位置とは？手はどんな動き方だったか？意図的であったか？スライディング時の支え手は？肩より上で当たった場合は？避けようとして当たった場合は？ハンドとハンドリング、面積と角度等、様々なシーンが映し出され、都度判定の解説があった。			
◇アナリシスについて ・程度と見極め ・コンタクトと行為 ・不用意/無謀/過剰 ・意図/激しさ/スピード/タイミング/チャージの危険性			
◇競技規則テスト[担当：渡辺氏] 7/10夜に実施された関西2級INSリモート研修で出題した内容を元に展開。 少し捻った問題もあり、受講者は首を傾げながらも競技規則から正解を探し出し、最後は全員納得した形で5問を終えた。			
実技要旨	◇アナリシスの実践について 事前に3人へ個別課題が与えられ、その事象を分析した上で、受講者同士で発表しあう実践方式で行われた。 1名が講師役（INS役）他の2名が受講者（審判員役）に分かれ、講師から指定された各動画を見せた上、判定とその根拠を話し合い、最後には全員の見解が一致するように導いていく。 ここでもいかに受講者から意見を引き出し、判定結果においても統一性を持たせることが大事になってくる。		
	◇振り返り 発表は三者三様で興味深いものとなった。 人によって判定が違うことで、①より活発な意見交換が出来た②「伝えることの難しさ」を改めて知り得たこと、が収穫となった。 ただし、事象分析においては理論的な説明ができるようコンシダレーションポイントを活用し、覚えたチュータリング手法を駆使して、審判員の指導に当たって欲しい。		
感想	まずは、必ず前回の振り返りを行うことから始まる。「やってお終い」ではないことを毎回痛感させられる。この度は半日実践形式の研修であったため、受講者間でも熱い意見交換がなされた。これが大きな目的の一つでもあるという。裏付けされる根拠をしっかりと持った上で、コンシダレーションポイントの考慮事項から該当する物と照らし合わせ、落とし込みや擦り合わせることの重要性を感じた回となった。		
備考	消毒の徹底、人との距離を最大限考慮した中で開催しました。 芦屋協会支援の下、甲南高等学校様のご協力とご配慮により、盛会にて終了しましたことを報告するとともに改めて会場確保いただいた関係者へ感謝申し上げます。		

研修報告書

報告日 2021年9月19日

担当 指導者部/都市委員長部会/広報

報告者 神田哲也

概要	実施日時	2021年9月5日 9時 ~ 17時
	場所	播磨光都第一サッカー場および研修棟会議室
	活動内容	2021年度 第4回 審判インストラクタートレーニングセンター
	講師	主：内橋克博 インストラクター：中村正光
	運営	松本実、高橋謙介、神田哲也
	受講者	川島陽治、小河良洋、布元淳智
	テーマ	アナリシス（分析力の向上）

要旨	具体的内容	写真
講義要旨	<p>【挨拶】内橋部長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トレセン開催目的の再確認 ・本日のメニューとこれまでの振り返り ・今後のスケジュールについて 	
	<p>【研修1】映像分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像3シーンを見て事象分析を行う。 ①判定結果 ②懲戒罰の有無（NoFoul / Foul / YellowCard / RedCard） ③判定の根拠 ④考慮事項の優先順位 （コンタレーションポイント資料の活用） <p>受講者それぞれ判定結果をホワイトボードに書いていただき、その根拠を説明。 判定が3通りに分かれたが、再度映像を見直し、考慮事項に沿って1つずつ当てはめながら正確に見極め、最終的には共通理解へと繋げていった。</p>	 
実技要旨	<p>【試合観戦】</p> <p>WESTリーグ 10:30キックオフ 英賀保SC vs 姫路SC</p> <p>主審：高橋謙介 副審：帯同</p> <p>主審の動き・判定・マネジメント等を観察し、指導ポイントをまとめる。</p>	
	<p>【フィードバック】 （振り返り）担当：小河氏</p> <p>試合後に主審に残っていただき、小河氏から良かった点、課題点を審判員に伝えることで、今後のパフォーマンス向上へと繋げてもらう。本人には他者からの感想や指摘、指導を受け、次の活動へと活かす。</p>	
	<p>【フィードバック】 （「振り返り」対する指導） 担当：中村氏</p> <p>これまで学んできた「チュータリング手法」が実践できていたかをチェックするセッション。 良かった点を挙げた後に「自分から答えを言ってなかったですか？」「指導ポイントがやや抽象的ではなかったですか？」「相手は理解してくれましたか？」と、足らなかった部分を指摘・改善を促すよう指導者養成に務めた。</p>	
内容		

実技要旨	<p>【研修2】 映像分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像5シーンを見て事象分析を行う。 ①判定結果 ②懲戒罰の有無 (NoFoul / Foul / YellowCard / RedCard) ③判定の根拠 ④考慮事項の優先順位 (コンタクションポイント資料の活用) <p>午後から2回目となった映像分析。 警告あるいは退場とも取れる微妙な映像であったため、最初は判定にズレや幅が生じていたが、回を重ねるごとに日本協会の見本回答どおりに揃うようになった。</p>	
添付資料	スケジュール表	
感想	<p>緊急事態宣言が発出されている中、感染対策を取って開催した第4回。本来であれば派遣フェーズとして関西協会から鳥家講師をお招きして研修するはずであったが、情勢を鑑み兵庫単独にて実施することとなった。</p> <p>今回も実践の場を設けるために姫路協会/西播磨協会の支援をいただき、試合観戦と主審への指導（振り返り）を行った。これまで講義で培ってきたものを活かす機会であったが、主審と向き合い会話していく中で、課題点をうまく伝えること、引き出すことが思っていた以上に難しかった様子だった。</p> <p>中村2級インストラクターから小河氏へ指導（①伝える内容の絞り込み②相手に喋らせる③気づかせる④どうすれば良かったのかを具体的に考えさせる⑤落とし込み⑦理解度の再確認等）があり、深く頷きながらメモを取る姿がそこに。</p> <p>今後も「伝えるための技術」「事象分析力」の向上に繋がるよう、残りの4回をより効果的なものにしていきたい。</p>	
備考	<p>二試合目のビデオ撮影がうまくいかず（記憶媒体のトラブル）、予定していたセッションができなかったことが運営側の反省点としてあった。</p> <p>今後は、二重の準備をすることで再発防止に務める。</p>	